

平成 26 年度第 2 回 海岸工学委員会 議事録

開催日時：平成 26 年 11 月 12 日(水) 18:00～20:20

開催場所：ウインクあいち（名古屋）10F 会議室

出席者：43 名の委員長，副委員長，幹事長，小委員長，副小委員長，委員，委員兼幹事，幹事他
佐藤委員長，青木副委員長，佐々木幹事長，岡安，渡部，森，重松，柿沼の各小委員長，
北野主査，田島，川崎の各副小委員長，辻本（荒木代理），池谷，伊藤，太田，長谷部
（大山代理），岡田，小野，桐，上月，小林，齋藤，猿渡，津田，鳥居，西田，松浦，松本，
水谷，宮武，山本の各委員，栗山，後藤，諏訪，高木，武若，松山，森屋，八木，山城，
横木の各委員兼幹事，下園幹事，鈴木夏期研修会担当

資料：

- ・平成 26 年度第 2 回海岸工学委員会幹事会の議事（資料 1）
- ・第 50 回水工学に関する夏期研修会 アンケート結果（資料 2）
- ・パワーポイント資料（資料 3）

■議事前報告事項

1. 前回議事録の確認

- ・WEB に公開済み

2. 報告事項

* APAC2015 9/7-10 @IIT Madras, Chennai（佐々木幹事長）

* 土木学会災害調査 WG 設置（武若委員代理出席，（佐々木幹事長））

- ・土木学会内の情報収集・調整のための WG.
- ・Kickoff Meeting が開催された.
- ・調査経費は支給されない.

* 論文集編集小委員長，広報正副小委員長の交替について（海講終了後に交替）（佐藤委員長）

- ・論文集編集小委員長：岡安小委員長から森小委員長に交替
（岡安小委員長は減災アセスメント小委員長に就任）

- ・広報小委員長：森小委員長から川崎小委員長に交替，川崎副小委員長から荒木副小委員長

■審議・報告事項

1. 海岸工学論文集第 61 巻の発刊状況について（岡安小委員長・田島副小委員長・佐々木幹事長）

* 査読について

- ・第 1 段審査：登録論文数 382 編，審査通過論文数 305 編（+ショートセッション 8 編）
- ・第 2 段審査：通過論文数 300 編（辞退 5 編）
- ・第 2 段審査以降（不採択 1 編，辞退 0 編），計 299 編が採択された.

- ・今年度はB判定(条件付き採択)を復活.
- ・反省点:B判定論文で再査読後に修正指摘があった場合の対応について混乱する著者が複数名いたため, 次年度の対応を検討する.

* アブストラクトの公開

- ・今年度からアブストラクトをWEBにて限定公開する. 各アブストラクトのpdfのファイル名を論文番号とし, zipでアーカイブしたものにパスワードを付け, 1年間ダウンロードできるようにする. パスワードはcecom等で通知済.

* JSTAGE

- ・J-STAGEのXMLファイル化が始まっているが, 様子見中である.
- ・土木学会他部門から変換ソフトが公開されそうなのでそれを待つ.

* 論文集編集の検討課題

- ・組版, 冊子体の存廃等, 論文集の将来検討: 海岸工学論文集将来検討WGで議論
- ・英文論文(全文査読)の募集を今年度から開始(投稿数22, 採択数16)
- ・海岸工学講演会の活性化を引き続き検討
- ・土木学会論文集編集委員会編集調整会議からの宿題

* 来年度の編集・出版形態

- ・二段階査読を維持(3月アブスト受付, 10月出版)
- ・電子査読を継続
- ・今年度同様に英語論文を通常論文と同じプロセスで査読, 英語論文の第1著者は今年度は外国籍を条件としたが, 次年度以降は日本人を含め誰でも投稿できることとする.
- ・現行の査読体制を継続
- ・企画セッションの募集は継続
- ・J-Stage: 従来通りBIBファイルを提出
- ・J-Stageはカラー化, 冊子体は廃止. 詳細は後述の将来検討WGにて
- ・海岸工学論文賞・奨励賞(各3編程度)を継続, 受賞論文はCEJに推薦
- ・著者負担金 35,000円(昨年度と同一). 40,000円(上限)にて告知済み, 論文集定価 5,000円

2. 海岸工学講演会企画セッションについて(岡安小委員長・武若委員兼幹事・横木委員兼幹事)

* 今年度の企画セッション(岡安小委員長)

- ・日時: 2014年11月13日(木, 講演会2日目), 15:20~17:50(司会: 岡安)
- ・テーマ: 津波防災まちづくりにおける防潮堤の役割
- ・講演件数: 7件. 各10分=計70分の講演の後, 60分程度パネルディスカッション形式の討論.

* 来年度の企画セッション(武若委員兼幹事)

- ・2015年度企画セッションのテーマは「海岸工学分野における気候変動への対応(案)」
- ・オーガナイザは武若委員兼幹事, 横木委員兼幹事

* 来年度の企画セッション募集方法(武若委員兼幹事)

- ・下記3項目が提案され, 承認された.

①投稿システムの分類項目に「企画セッション・気候変動への対応」を加え、「口頭発表のみ」または「論文」のいずれかを選択できるようにする。オーガナイザが依頼する「口頭発表のみ」および「論文」はこの分類項目で投稿してもらうことを原則とする。「口頭発表のみ」については、特別な事情があるときは投稿システムを用いずに招待講演（査読なしの意味での招待）として依頼できるものとする。

②企画セッションは以下の3つから構成されるものとする：

(A) 「企画セッションの分類」に投稿されたもので、採択された「論文」からオーガナイザが選定したもの。選定されなかった採択「論文」については通常セッションに回す（オーガナイザと幹事長で要調整）。「口頭発表のみ」については企画セッションに選定されたものが採択となり、それ以外は不採択となる（来年度以降ショートセッション一般は廃止されるため）。

(B) オーガナイザが(A)によらず特別に招待講演として依頼した「口頭発表のみ」。

(C) 通常の投稿論文で採択されたものの中からオーガナイザが著者の同意を得た上でプログラム編成時に選定したもの（オーガナイザと幹事長で要調整）。

③上記(A)に投稿された「論文」は通常の投稿論文と区別無く査読審査を行い、「口頭発表のみ」の査読や選定の方法についてはオーガナイザの裁量に任せることとする。(B)の「口頭発表のみ」については、特別な事情があるときはオーガナイザと幹事長の協議の上、講演負担金を免除できるものとする。

【質疑応答】

- ・ 企画セッションにおいては「口頭発表」と論文（フルペーパー）が同じセッションで発表されることになるが、これは運営上不安を感じる。
→ 企画セッションへの投稿に際して、また、通常論文を企画セッションで発表するに際しては、講演時間等において「口頭発表のみ」と「論文」に区別を設けないことを周知し、事前に了解いただくこととする（佐々木幹事長）。
- ・ オーガナイザが通常の投稿論文（上記の(B)）からプログラム編成時に選定する場合は、事前に企画セッションで発表することに関する著者の了解を得ることとする（佐々木幹事長）。
- ・ 発表者の考えより聴講者のメリットを優先したい（武若委員兼幹事）。
- ・ 企画セッションに投稿された論文（フルペーパー）の査読は通常論文と同じ扱いとすることを再確認する。
- ・ 通常の投稿論文の中からオーガナイザが選定する場合はいつの段階で実施するのか。アブストが不採択の場合でもオーガナイザが選定できるのか？
→ 不採択の論文は対象外であり、採択が確定した後のプログラム編成時に選定する（佐々木幹事長）。
- ・ 企画セッションの投稿要領を武若委員兼幹事と横木委員兼幹事で再整理し、次期募集の前に掲示する（武若委員兼幹事）。

3. 海岸工学論文賞および同論文奨励賞の候補論文について（佐々木幹事長）

- ・ 海岸工学論文賞および同論文奨励賞の候補論文選考のルールと選考方法(前年度と変更なし)を確認し承認された。また、選考のプロセスについても確認し、承認された。その結果、以下の通り論文賞および奨励賞が決定された。

*論文賞

- ①題 目： 階層ベイズモデルによる津波波源逆解析解の信用区間と観測誤差の同時定量推定
著 者： 高川智博，富田孝史
- ②題 目： 津波越流時の防波堤基礎の不安定化と腹付工の効果
著 者： 宮本順司，三宅達夫，鶴ヶ崎和博，角田紘子，前田健一，松田達也
- ③題 目： 陸上構造物に働く津波波力の時系列評価に関する研究
著 者： 織田幸伸，本田隆英，高島知行

*奨励賞

- ①題 目： 津波越流に対する鋼矢板壁構造の堤防補強効果に関する実験的検討
筆頭著者： 三戸部佑太（共著：乙志和孝，黒澤辰昭， Mohammad Bagus，盧敏，田中仁）
- ②題 目： 確率論的津波遡上評価と津波リスクの定量化
筆頭著者： 福谷陽（共著：サッパシー アナワット，安倍祥，今村文彦）
- ③題 目： 多段バーの安定機構に関する底質のサクシオン動態・密度・せん断強度の時空間変化
筆頭著者： 白水元（共著：佐々真志，宮武誠，外村隆臣，中條壮大，山田文彦）

4. 海岸工学論文集の将来検討（H27 年度以降対応）について（北野主査）

*提案事項

来年度以降の対応について、北野主査より以下の通り提案がなされ、承認された。

- ・ 冊子体を廃止し、代わりに DVD の論文集を作製する。DVD 論文集の体裁は冊子体と同様とし、巻頭言、委員名簿、査読者名簿、著者索引等も従来通り含めるものとする。
- ・ 著者負担金は 1000 円程度増額とする。著者負担金に DVD 論文集代が含まれているとし、DVD 論文集を採択論文の投稿者に配布する。
- ・ 一般向けの DVD 論文集販売は、頒布価格 3000 円程度を予定している。
- ・ 組版は廃止し、版下原稿の pdf を著者が作製する（著者原稿）。
- ・ 第 2 次審査（全文審査）において、副査（編集小委員会委員）を中心に著者原稿の体裁を入念にチェックして問題箇所を指摘し、組版に回すべきレベルのものであれば、主査が著者に対して警告し、再審査とする。再審査時においても著者原稿の体裁上の完成度が著しく低いものは従来と同様に主査が編集小委員会（cec）に対して不採択を提案することができ、編集小委員会が最終判断する。体裁上の問題はあるものの採択に値すると判断される論文については、組版に回すことを採択の条件として主査から編集小委員会（cec）に提案し、編集小委員会（cec）が最終判断をする。組版経費は著者負担とし、その料金設定は編集小委員会に一任する。
- ・ フォーマットは土木学会論文集（通常号）のものに統一し、従来の分量を確保することおよび査読の負担を考慮し、6 ページとする。
- ・ 著者からの提出物

最終原稿は PDF で提出.

原稿が MS WORD の場合は MS WORD ファイルも添付.

検索用に TEXT ファイル

確認用に紙に印刷したのもも提出

J-Stage 用の csv ファイル

- ・ 投稿, 査読スケジュールは現行通りとする. 11月1日に J-Stage に提出できるようにする.

* 提案事項の補足説明

- ・ 冊子体発刊は費用がかかるが, 企業広告や別刷りの収入などもあり, 廃止してもあまり経費節減とはならない.
- ・ J-Stage での DL は面倒であるが, DVD の配布で対応する.
- ・ J-Stage は検索が遅い弱点があるが, 海岸工学論文集のデータベースを今後も活用できるようにする.
- ・ 冊子体では左右それぞれに異なるヘッダー (論文名, 論文誌名) があるが, PDF では左右がなくなるので論文誌名に統一する.
- ・ 分類項目や著者による論文索引は DVD 内でリンクさせて対応する.
- ・ 企業広告について
 - ・ 実績: 2000年90団体, 2013年19社であり, 減少してきた.
 - ・ 表紙・裏表紙・中表紙に掲載. バナーの挿入等, DVD においても企業広告を継続し, 広告を掲載する企業にとって魅力的なものとなるよう検討する.
- ・ DVD のケース, 表紙デザインについて紹介があった.
- ・ 組み直し原稿となる可能性がある場合は, 2次査読で主査から著者に必ず警告する.
- ・ 当日販売分には USB をおまけで付けることを検討 (会場によっては金銭授受が禁止されている場合があることに注意).
- ・ 細かい点は編集小委員会に一任し, 重要と思われる場合は委員会メール審議とする.

5. 第 61 回海岸工学講演会の実施状況について (水谷委員)

- ・ 見学会参加人数は, A コース 28 人, B コース 32 人.
- ・ 前日シンポジウム参加人数
 - ・ (テーマ 1) 気候変動の影響評価と適応策の検討: 59 人
 - ・ (テーマ 2) 南海トラフ巨大地震津波等への備え: 55 人
- ・ 海岸工学講演会の実施状況について
初日第 4 セッション終了時点で参加者数, 410 人

6. 第 62・63 回海岸工学講演会の開催 (会場など) について

* 第 62 回海岸工学講演会 (東京) の準備状況 (下園幹事)

- ・ 実行委員会: 実行委員長: 水口 (中大)
岡安 (海洋大), 鈴木 (横浜国大), 田中 (東京都市大),
佐藤・佐々木・田島・鯉渕・下園 (東大)

- ・ 日程：2015年11月11日（水）～13日（金）
- ・ 会場：タイム24ビル（臨海副都心青海（台場））
- ・ 前日シンポジウム
日時：11月10日（火） 17:00～20:00
会場：タイム24ビル（講演会第一会場と同部屋）

- ・ 見学会候補地
①東京港見学・クルーズ（東京都，定員60名）
②横須賀，久里浜方面（港湾空港技術研究所見学）

*** 第63回海岸工学講演会（大阪市）の準備状況（青木副委員長）**

- ・ 実行委員会：実行委員長：間瀬（京大），幹事：荒木（阪大）
後藤・森・原田・安田・五十里（京大），重松・遠藤（大阪市立大），内山（神戸大），
辻本・柿木（神戸市立高専），川崎（株）ハイドロソフト），青木（阪大）
- ・ 日程：2016年11月16日（水）～18日（金）
- ・ 会場：大阪大学中之島センター（北区中之島）

7. Coastal Engineering Journal について（渡部小委員長）

*** WSPC の WEB 上の紹介**

- ・ WSPC の WEB 上で CEJ を紹介．Award を前面に出した．

*** Award の新設**

- ・ Citation Award を新設
- ・ IF の貢献度，引用数の高い論文として WEB で公開
- ・ 読者の拡充，引用の増加，投稿の増加を期待
- ・ 特別号を含む過去5年間に出版された全ての原著論文を対象
- ・ Web of Science 上の引用数が最も高い論文を候補とする．過去に同賞を受賞した論文は候補とせず，次点の論文を候補とする．
- ・ 海岸工学委員会で承認された候補論文の著者を，海岸工学講演会にて表彰

*** 特集号**

- ・ 毎年出版する．
- ・ 今号：2015年3月出版，
- ・ 次号：2016年3月（推薦，公募論文を対象），2014年12月から ABS，査読，本論文執筆

*** CEJ のさらなる発展に向けての提案**

- ・ 現行の年間4号出版体制を6号体制としたい．
- ・ Special Issue を年間2回発行可能 → 年間論文数の増加，サイト数の増加
- ・ アクセプト後，迅速な出版
- ・ 論文数確保のため，皆様の投稿協力が必要．年間20編を30～35編に増やしたい．
- ・ 以上について，前向きに検討を進めることが承認された．

【質疑応答】

- ・ 年によって出版回数の増減はあってもよいか

- 増減は考えていない.
- ・ 企画セッション担当者が協力してはどうか
 - なじまないと考える.
- ・ 日本からの投稿の搭載率かどうか. 外国に乗っ取られては意味がない
 - 約 70%である.
- ・ 掲載論文数を増やすと質が低下するのではないか. 良い論文のインパクトファクターが低下するのが心配である.
- ・ WSPC への上納費用は, 年間 6,000 USD.

8. 研究小委員会の活動について (広報, 沿岸域, 津波, 波動モデル, 減災アセス各小委員長)

* 広報小委員会 (森小委員長)

- ・ 外向きの情報発信を心がけたい.
- ・ Web 情報の充実を図る.
- ・ web 公開した台風 30 号の災害情報は, 8000 件の Hit があった.

* 沿岸域小委員会 (重松小委員長)

- ・ 特になし

* 地震・津波小委員会 (小委員長欠席)

* 波動モデル小委員会 (柿沼小委員長)

- ・ 参加者を募集.

* 減災アセス小委員会 (岡安小委員長)

- ・ 海岸工学と土木計画学の合同で実施.
- ・ 2014 年 10 月から 3 年間

9. 第 50・51 回 (2014・2015) 水工学に関する夏期研修会 (Bコース) について

* 第 50 回水工学に関する夏期研修会 (B コース) 実施報告 (山城委員兼幹事)

・ 実施状況

- ・ 開催日 2014 年 8 月 25 日 (月) ~ 8 月 26 日 (火). 会 場 九州工業大学戸畑キャンパス
- ・ テーマ: 「海岸・港湾に関する調査・観測の技術」
- ・ 参加者数: B コース 59 人
- ・ アンケート結果について説明された (資料 3)

・ 会員と非会員の参加費について (案)

- ・ 学生参加費を 13000 円から 10000 円に値下げしたばかりなので, 学生については 会員・非会員の差別化は行わない.
- ・ 現在, 一般の会費は一律 16,000 円. 会員を 15,000 円, 非会員を 17,000 円に改定.
- ・ → 会員・非会員の参加費の差別化については今後の課題とする.

・ 水工学 (Aコース) からの提案事項

学会員と非学会員で参加費に差を付けたい.

講習会資料のカラー化（冊子：白黒，CD：カラー）

* 第 51 回水工学に関する夏期研修会（B コース）実施報告（鈴木担当）

- ・ 開催日 2015 年 8 月 24 日（月）～ 8 月 25 日（火）
- ・ 会場 横浜国立大学

10. その他

* 土木学会トークサロン（企画委員会主催）の開催について（佐藤委員長）

- ・ テーマ：津波対策技術のフロンティア
- ・ 2014 年 12 月 15 日（月）18:30-20:00，中央大学後楽園キャンパス
- ・ コーディネータ：佐藤慎司（東京大学）
 - ・ 富田孝史（港空研）：津波の沖合観測とその利用
 - ・ 有川太郎（港空研）：防護施設の効果と粘り強さについて
 - ・ 高橋智幸（関西大学）：市街地への津波氾濫による人的被害の軽減策その他

* ジョイントセミナー@フィリピン準備状況について（田島副小委員長）

- ・ JSCE-PICE ジョイントセミナー
- ・ Field Surveys, Analysis and Mitigation Strategies for Typhoons and Other Coastal Hazards in the Philippines and Japan
- ・ Date & Time: 28 November 2014 (Friday)
- ・ Venue: The Sulo Riviera Hotel, Quezon City

* 次回の海岸工学委員会の開催について（佐々木幹事長）

- ・ 2015 年 6 月に開催予定
- ・ 2015-2016 年度の委員長選挙実施

以上
(議事録：津田)